

第2部 年齢別人口（平成19年1月1日現在）

1 年齢3区分別人口

・上がり続ける老年人口比率

平成19年1月1日現在の横浜市の人口（3,606,797人）を年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が485,251人、生産年齢人口（15～64歳）が2,447,424人、老年人口（65歳以上）が639,941人となっています。前年と比較すると、年少人口が2,762人（前年比0.6%）増加し、老年人口は29,651人（同4.9%）と大幅に増加しているのに対し、生産年齢人口は10,539人（同0.4%）減少しています。

年齢3区分別割合は、年少人口が13.5%、生産年齢人口が67.9%、老年人口が17.7%で、前年に比べ年少人口の割合は横ばいであったものの、老年人口は0.7ポイント拡大し、戦後最も高い水準となっています。生産年齢人口は0.7ポイント縮小し、昭和35年以降で最も低い割合となっています。

全国（それぞれ13.6%、65.4%、21.0%。平成19年1月1日概数値）と比較すると、横浜市では生産年齢人口の割合が高く、老年人口の割合が低くなっています。また、年少人口と老年人口の数が逆転した年が全国では平成9年、横浜市では平成12年で、ともにその差は広がる傾向にあります。[表2-1、図2-1]

図2-1 年少人口及び老年人口の割合の推移

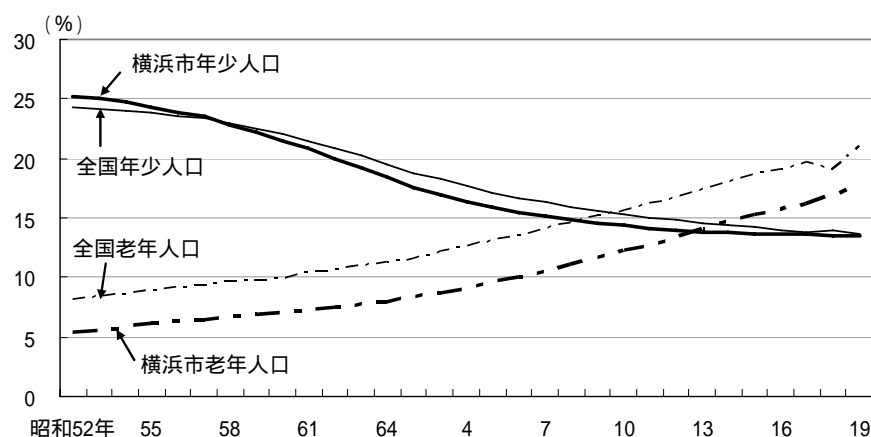


表2-1 年齢（3区分）別人口の推移（昭和22年～平成19年）

年次	人 口				割合 (%)			増 減			
	総 数	0～14歳	15～64	65歳以上	0～14歳	15～64	65歳以上	総 数	0～14歳	15～64	65歳以上
昭和22年	814,379	261,084	527,405	25,890	32.1	64.8	3.2
25年	951,189	312,659	605,886	32,582	32.9	63.7	3.4	136,810	51,575	78,481	6,692
30年	1,143,687	350,098	749,689	43,875	30.6	65.6	3.8	192,498	37,439	143,803	11,293
35年	1,375,710	365,008	953,827	56,875	26.5	69.3	4.1	232,023	14,910	204,138	13,000
40年	1,788,915	411,315	1,302,221	75,379	23.0	72.8	4.2	413,205	46,307	348,394	18,504
45年	2,238,264	530,939	1,606,628	100,697	23.7	71.8	4.5	449,349	119,624	304,407	25,318
50年	2,621,771	663,517	1,823,622	132,756	25.3	69.6	5.1	383,507	132,578	216,994	32,059
55年	2,773,674	666,549	1,931,040	173,291	24.0	69.6	6.2	151,903	3,032	107,418	40,535
60年	2,992,926	627,834	2,144,889	217,410	21.0	71.7	7.3	219,252	-38,715	213,849	44,119
平成2年	3,220,331	551,426	2,373,769	278,000	17.1	73.7	8.6	227,405	-76,408	228,880	60,590
7年	3,307,136	491,340	2,447,608	364,760	14.9	74.0	11.0	86,805	-60,086	73,839	86,760
12年	3,426,651	474,656	2,463,151	477,053	13.9	71.9	13.9	119,515	-16,684	15,543	112,293
17年	3,579,628	481,960	2,459,648	603,839	13.5	68.7	16.9	152,977	7,304	-3,503	126,786
18年	3,584,923	482,489	2,457,963	610,290	13.5	68.6	17.0	25,056	529	-1,685	6,451
19年	3,606,797	485,251	2,447,424	639,941	13.5	67.9	17.7	21,874	2,762	-10,539	29,651

注) 昭和22年～平成17年は「国勢調査」（10月1日現在）、平成18年以降は「推計人口」（1月1日現在）による。平成18年～平成19年の数値は、平成17年国勢調査結果（確定値）に基づき推計したものであり、人口ニュース等で公表した推計人口とは一致しない。また、総数には「年齢不詳」を含む。

2 年齢構造指数

・依然上昇を続ける老年化指数

年齢構造指数をみると、現役世代の扶養負担程度を示す「年少人口指数」(生産年齢人口100人に対する年少人口の数)は19.8、「老年人口指数」(生産年齢人口100人に対する老年人口の数)は26.1、これらの和である「従属人口指数」は46.0となっています。

また、生産年齢人口の影響を受けないため人口の高齢化を敏感に示す指標として用いられる「老年化指数」(年少人口100人に対する老年人口の数)は131.9となっています。

前年と比べると、年少人口が微増であるのに対し、老年人口は大幅に増加しているため、老年人口指数及び老年化指数が上昇しています。

なお、全国では年少人口指数が20.8、老年人口指数が32.1、従属人口指数が52.9、老年化指数が154.1となっており、いずれも横浜市の指数を上回っています。[表2 - 2、図2 - 2]

図2 - 2 年齢構造指数の推移(昭和51年～平成19年)

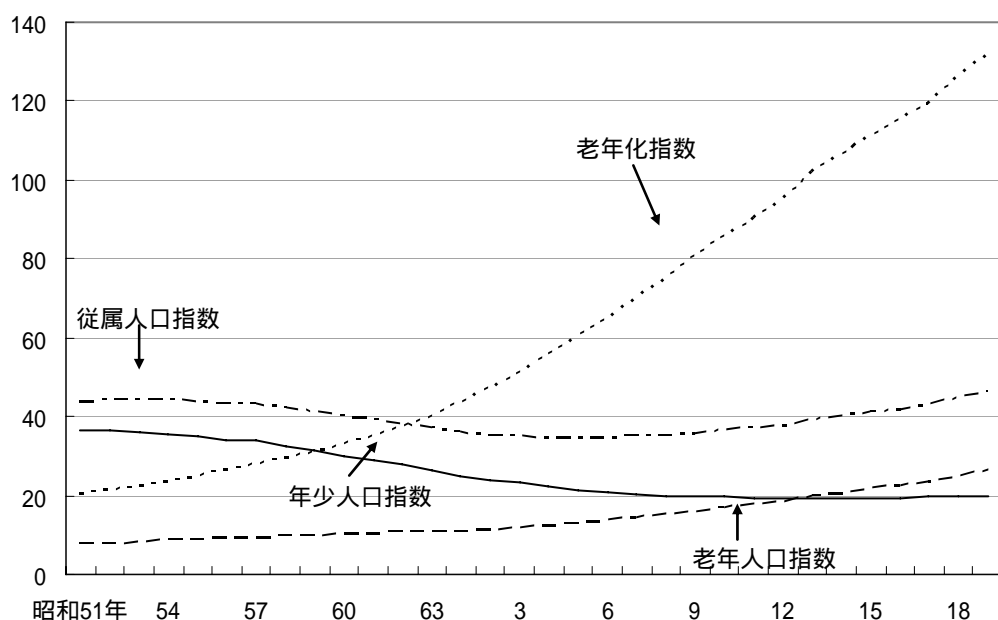


表2 - 2 年齢構造指数及び平均年齢の推移(昭和22年～平成19年)

年次	横浜市					全国				
	年少人口指数	老年人口指数	従属人口指数	老年化指数	平均年齢(歳)	年少人口指数	老年人口指数	従属人口指数	老年化指数	平均年齢(歳)
昭和22年	49.5	4.9	54.4	9.9
25年	51.6	5.4	57.0	10.4	26.4	59.4	8.3	67.7	13.9	26.6
30年	46.7	5.9	52.6	12.5	27.4	54.6	8.7	63.3	15.9	27.6
35年	38.3	6.0	44.2	15.6	28.5	47.0	8.9	55.9	19.0	29.0
40年	31.6	5.8	37.4	18.3	29.1	37.9	9.2	47.1	24.4	30.3
45年	33.0	6.3	39.3	19.0	29.5	34.9	10.3	45.1	29.4	31.5
50年	36.4	7.3	43.7	20.0	30.3	35.9	11.7	47.6	32.6	32.5
55年	34.5	9.0	43.5	26.0	32.2	34.9	13.5	48.4	38.7	33.9
60年	29.3	10.1	39.4	34.6	34.0	31.6	15.1	46.7	47.9	35.7
平成2年	23.2	11.7	34.9	50.4	36.0	26.2	17.3	43.5	66.2	37.6
7年	20.1	14.9	35.0	74.2	38.2	23.0	20.9	43.9	91.2	39.6
12年	19.3	19.4	38.6	100.5	40.1	21.4	25.5	46.9	119.1	41.4
17年	19.6	24.5	44.1	125.3	41.9	20.8	30.5	51.4	146.5	43.3
18年	19.6	24.8	44.5	126.5	41.9	20.7	30.5	51.2	147.3	...
19年	19.8	26.1	46.0	131.9	42.2	20.8	32.1	52.9	154.1	...

注) 昭和22年～平成17年は「国勢調査」(10月1日現在)、平成18年以降は「推計人口」(1月1日現在)による。ただし、平成19年の全国は「人口推計月報」の概算値

3 平均年齢

・42.25歳（平成19年1月1日現在）

横浜市の平成19年1月1日現在の平均年齢は42.25歳で、前年に比べ0.32歳高くなっています。平成12年国勢調査ではじめて40歳を上回って以来、引き続き上昇しています。

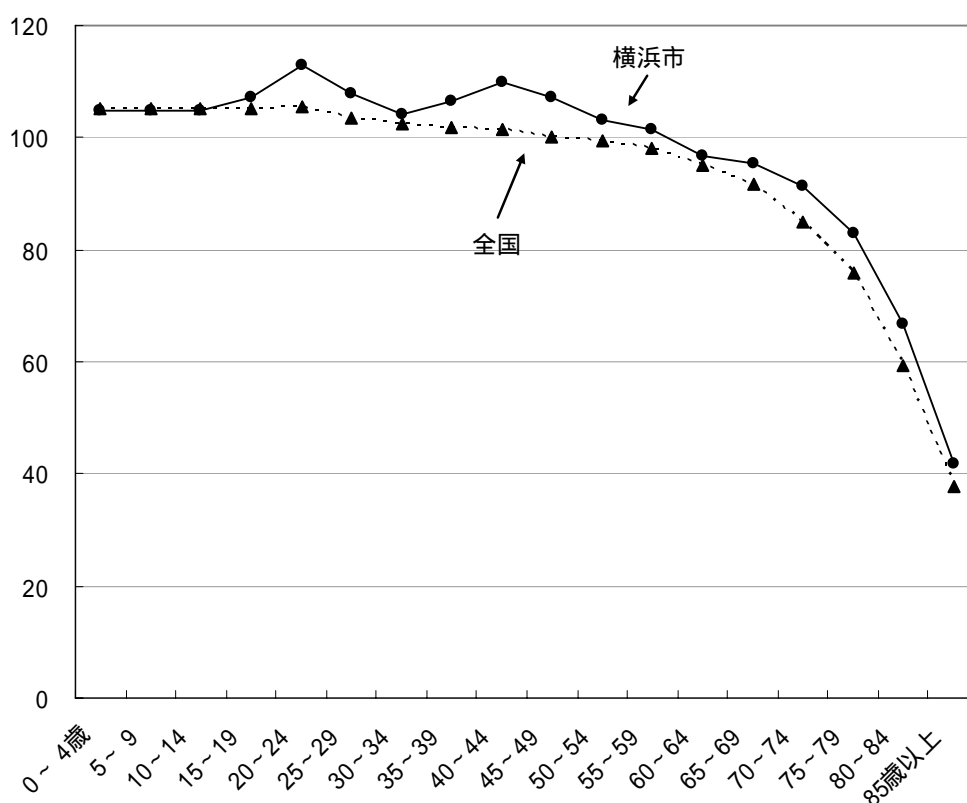
4 年齢別性比

・性比は101.3で平成3年から連続低下

総人口（3,606,797人）を男女別にみると、男が1,814,833人、女が1,791,964人で性比（女100人に対する男の数）が101.3と、前年（101.5）より0.2ポイント低くなっています。全国（男6,231万人、女6,544万人、性比95.2）より6.1ポイント高くなっています。

性比を年齢5歳階級別にみると、50歳代までは100を上回り男が女より多いのに対し、60歳代からは年齢の上昇とともに性比は急激に低くなっています。[統計表第2表、図2-3]

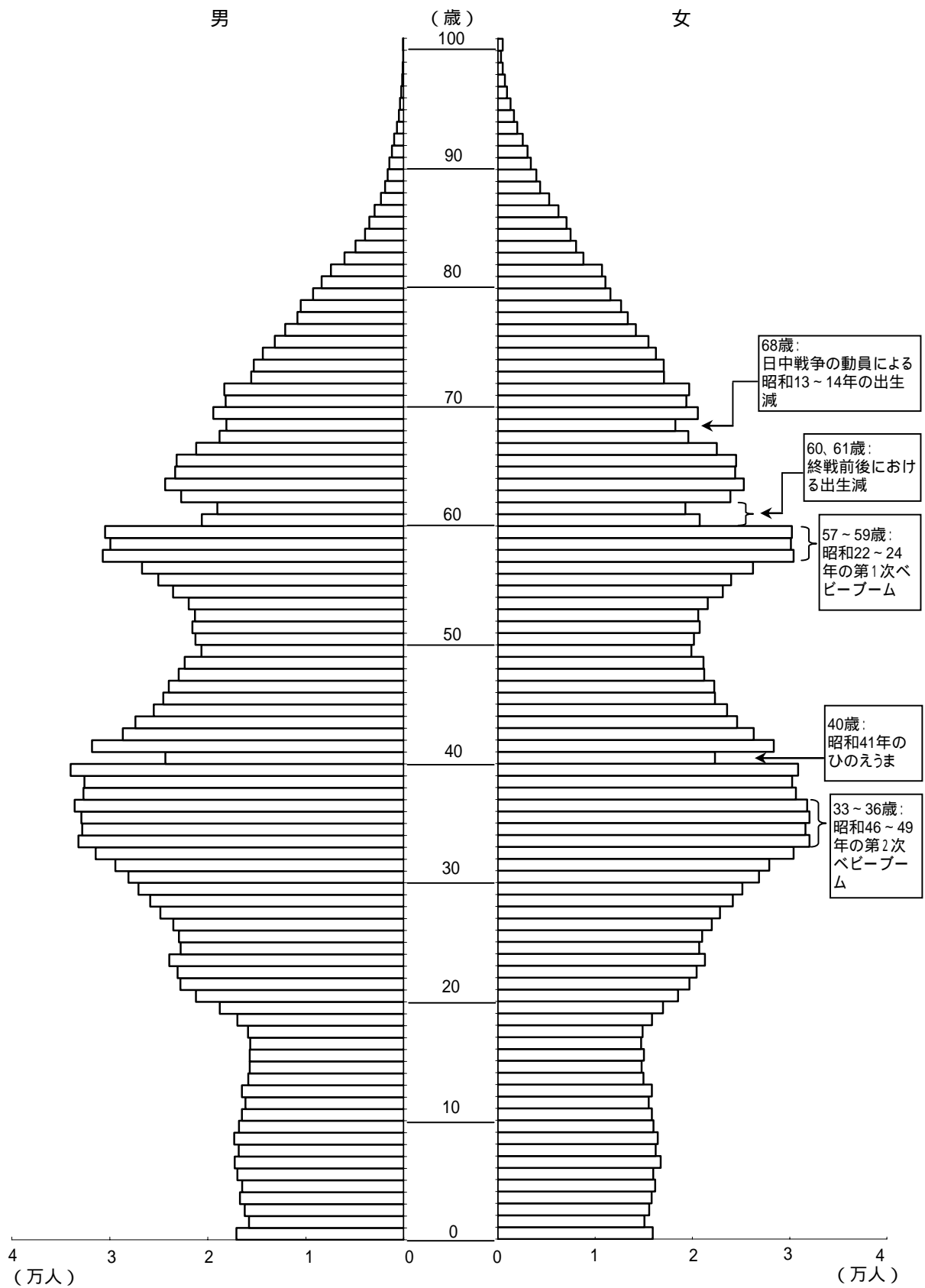
図2-3 年齢（5歳階級）別性比（平成19年）



注) 全国は「人口推計月報」の概算値

男女、年齢別人口構造の特徴を視覚的に捉えるのとして「人口ピラミッド」がありますが、横浜市は57～59歳と33～36歳の2つのベビーブーム世代を中心として膨らみを持ち、人口の少子高齢化を反映した「ひょうたん型」となっています。

図 2 - 4 横浜市の人口ピラミッド (平成19年)



5 区の年齢別人口

・老年人口割合は旭区（21.6%）、年少人口割合は都筑区（19.2%）がトップ

行政区別に年齢3区分をみると、老年人口割合は全区で上昇しました。なかでも旭区が21.6%と最も高く、以下、南区（21.0%）、磯子区（20.3%）の順になっています。また、青葉区、都筑区の2区を除く16区で、いわゆる「高齢社会」の目安となる14%を超えています。

一方、年少人口割合は都筑区が19.2%で最も高く、以下、青葉区（16.0%）、瀬谷区（15.0%）、緑区（14.9%）の順となっています。〔表2-3、図2-5〕

年齢構造指数を最も高い区でみると、年少人口指数は都筑区で27.9、老年人口指数は旭区の33.1、従属人口指数は旭区の53.0、老年化指数は南区の191.2となっています。

平均年齢は全区で上昇しており、最も高い南区が44.89歳、最も低い都筑区が37.53歳で、両区の差は7.36歳となります。平均年齢が30歳台の区は都筑区（37.53歳）と青葉区（39.44歳）の2区のみとなっており、市全体の平均年齢（42.25歳）より低い区は鶴見区、港北区、緑区、青葉区、都筑区、戸塚区の6区で、戸塚区を除き市域の北部に集中しています。

〔表2-4、図2-6〕

図2-5 区別の老年人口の割合
(平成19年)

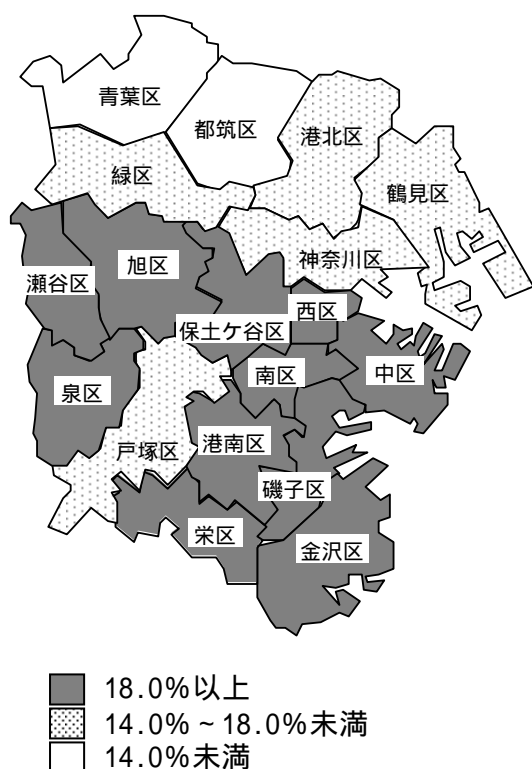
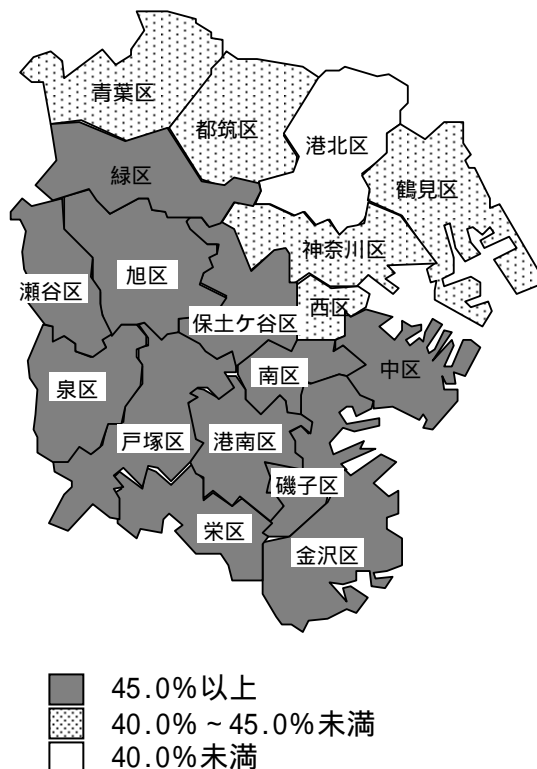


図2-6 区別の従属人口指数
(平成19年)



各区の人口ピラミッドをみると、少子化を反映して、ほとんどの区が30歳代と50歳代を中心に二つの膨らみを持つ「ひょうたん型」となっていますが、平均年齢が低い青葉区や都筑区などでは第1次ベビーブームの人口の膨らみが顕著には現れておらず、30から35歳代を底辺とするほぼ三角形の形状となっています。〔図2-7〕

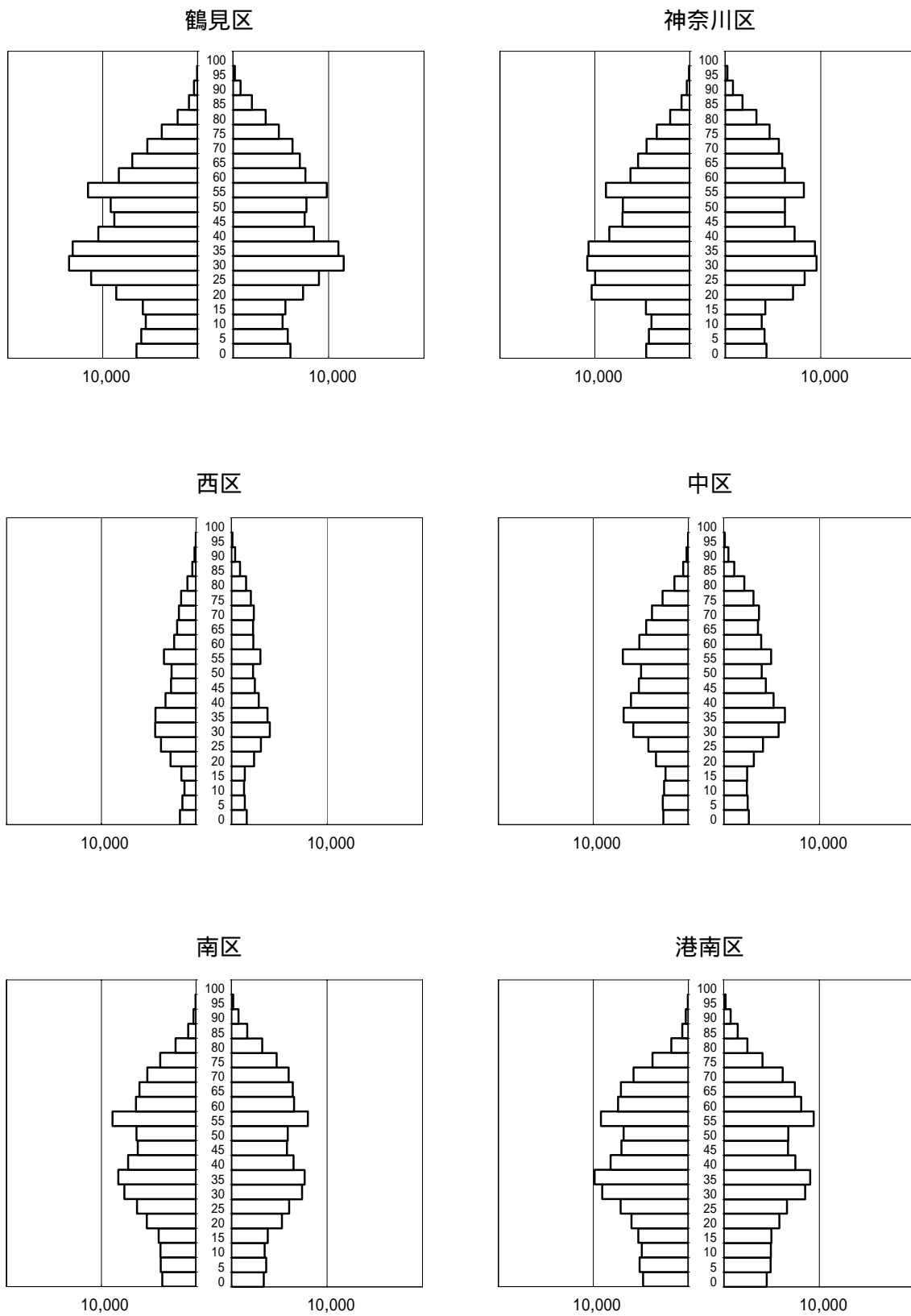
表2 - 3 区の年齢（3区分）別人口の割合及び人口増加率（平成18年・19年）

地域	年齢別割合（％）						平成18年中の人口増加率（％）			
	平成18年			19年			総数	0～14歳	15～64	65歳以上
	0～14歳	15～64	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上				
横浜市	13.5	68.6	17.0	13.5	67.9	17.7	0.61	0.57	0.43	4.86
鶴見区	13.0	70.4	15.9	13.1	69.8	16.5	0.70	0.99	0.12	4.13
神奈川区	11.3	71.3	17.2	11.4	70.7	17.7	0.05	0.27	0.72	3.09
西区	10.2	68.7	19.0	10.2	68.3	19.3	0.06	0.53	0.51	1.86
中区	10.8	67.8	19.1	10.9	67.3	19.4	1.01	1.86	0.41	2.81
南区	11.1	66.2	20.3	11.0	65.6	21.0	0.16	1.02	1.04	3.14
港南区	13.3	68.5	17.9	13.2	67.6	19.0	0.23	0.85	1.64	5.61
保土ヶ谷区	12.8	67.4	19.1	12.6	66.7	20.0	0.04	1.47	0.96	4.55
旭区	13.0	66.2	20.5	13.0	65.1	21.6	0.28	0.44	1.87	4.98
磯子区	12.3	66.7	19.5	12.3	65.9	20.3	0.02	0.62	1.13	4.17
金沢区	13.0	68.3	18.2	13.0	67.4	19.0	0.50	0.86	0.70	4.79
港北区	12.6	71.1	14.5	12.7	70.7	14.9	1.60	2.17	0.96	4.46
緑区	14.8	69.3	15.8	14.9	68.5	16.6	0.92	1.00	0.27	6.05
青葉区	16.1	70.0	12.5	16.0	69.4	13.2	0.76	0.15	0.09	6.42
都筑区	19.3	69.1	10.7	19.2	68.7	11.3	2.08	1.36	1.50	7.34
戸塚区	14.0	68.3	16.9	14.2	67.5	17.5	2.01	3.39	0.74	6.06
栄区	12.9	67.2	18.6	13.0	65.8	19.9	0.50	1.06	1.51	7.40
泉区	14.8	67.0	18.0	14.7	66.1	19.0	0.54	0.17	0.83	6.23
瀬谷区	15.0	66.4	18.5	15.0	65.5	19.5	0.35	0.62	1.75	4.90

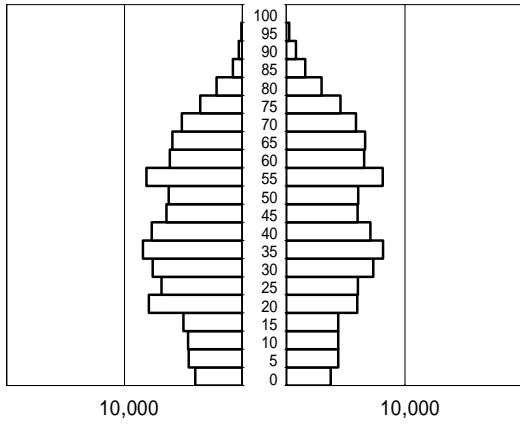
表2 - 4 区の年齢構造指数及び平均年齢（平成18年・19年）

地域	平成18年					19年				
	年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化 指数	平均年齢 (歳)	年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化 指数	平均年齢 (歳)
	横浜市	19.6	24.8	44.5	126.5	41.93	19.8	26.1	46.0	131.9
鶴見区	18.5	22.6	41.1	122.4	41.57	18.7	23.6	42.3	126.2	41.77
神奈川区	15.9	24.1	40.0	151.3	41.97	16.1	25.0	41.1	155.5	42.30
西区	14.8	27.6	42.4	186.4	43.56	15.0	28.2	43.2	188.9	43.73
中区	16.0	28.2	44.2	176.3	44.45	16.2	28.9	45.1	178.0	44.60
南区	16.7	30.7	47.4	183.5	44.56	16.7	32.0	48.7	191.2	44.89
港南区	19.4	26.2	45.5	135.2	42.67	19.5	28.1	47.6	144.0	43.11
保土ヶ谷区	18.9	28.4	47.3	149.9	42.93	18.8	29.9	48.8	159.1	43.37
旭区	19.6	31.0	50.6	157.6	43.76	19.9	33.1	53.0	166.1	44.21
磯子区	18.5	29.2	47.7	157.8	43.68	18.6	30.8	49.4	165.4	44.03
金沢区	19.0	26.7	45.7	140.0	42.75	19.3	28.1	47.5	145.5	43.06
港北区	17.7	20.4	38.1	115.0	40.47	18.0	21.1	39.1	117.6	40.65
緑区	21.4	22.9	44.3	106.7	40.84	21.7	24.3	46.0	112.1	41.19
青葉区	23.0	17.8	40.8	77.6	39.04	23.0	19.0	42.0	82.4	39.44
都筑区	27.9	15.5	43.5	55.5	37.21	27.9	16.4	44.3	58.8	37.53
戸塚区	20.6	24.7	45.2	120.0	41.76	21.1	26.0	47.1	123.1	41.93
栄区	19.2	27.7	47.0	144.3	43.29	19.7	30.3	50.0	153.3	43.69
泉区	22.0	26.8	48.8	121.7	42.20	22.2	28.7	50.9	129.6	42.60
瀬谷区	22.6	27.8	50.4	123.1	41.90	22.8	29.7	52.5	130.0	42.35

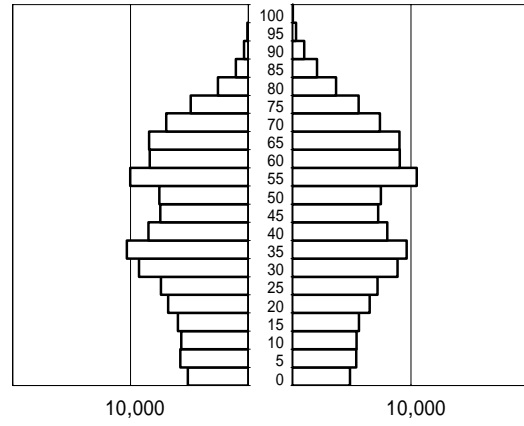
図2 - 7 区別の人口ピラミッド（平成19年）



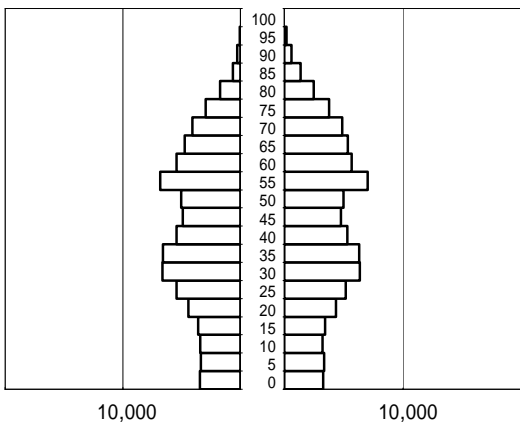
保土ヶ谷区



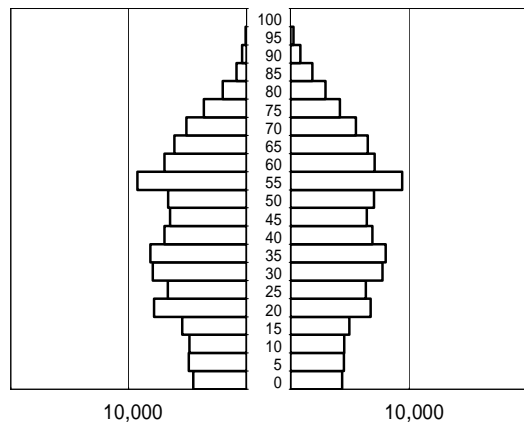
旭区



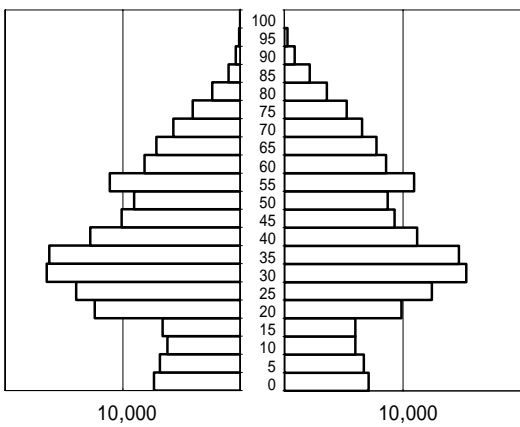
磯子区



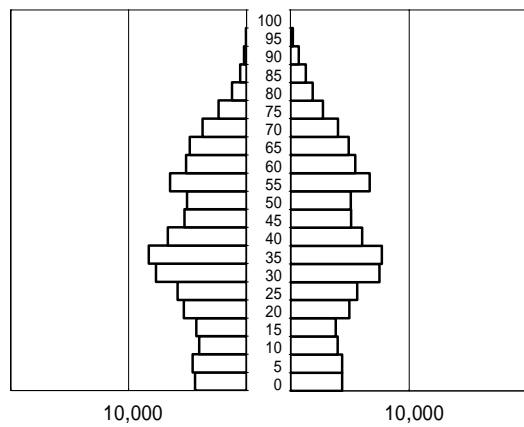
金沢区



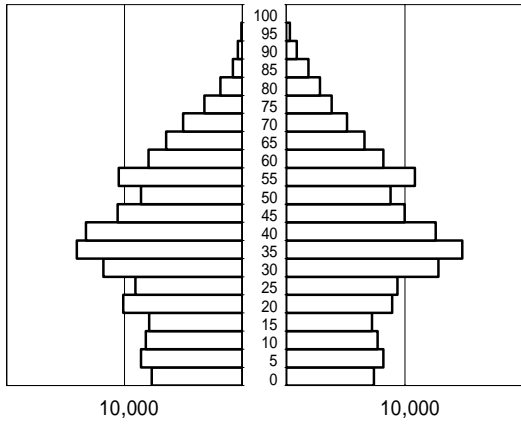
港北区



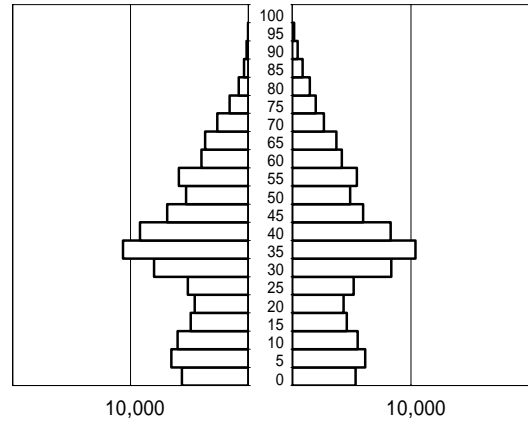
緑区



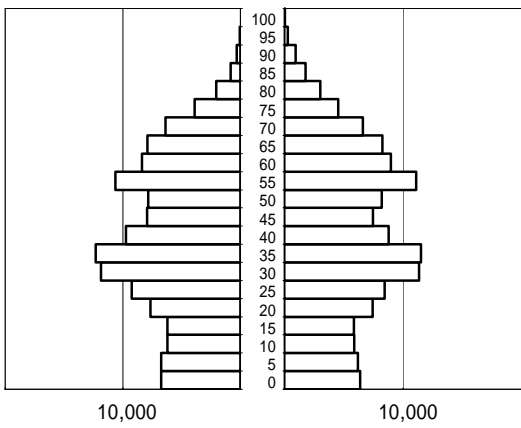
青葉区



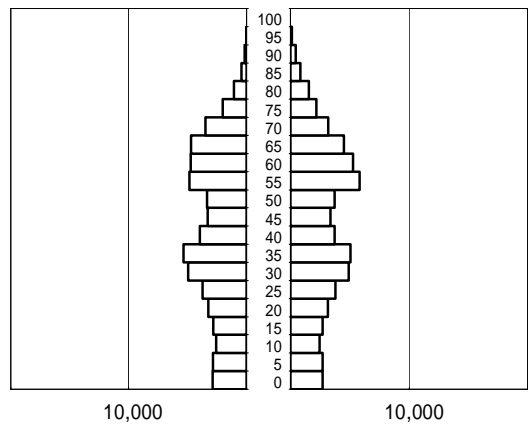
都筑区



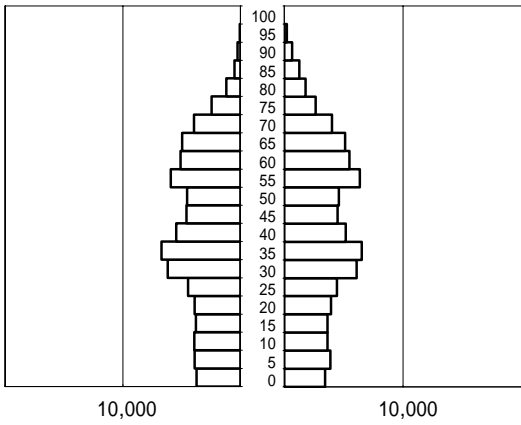
戸塚区



栄区



泉区



瀬谷区

